

明日への力

日本総合研究所

リサーチ・コンサルティング部門

マネジャー 辻本 綾香

98



文化芸術は都市を成長させる原動力になり得るのではないかと。10月29日に刊行される『クリエイティブエコノミーが切り拓く都市の未来』は、この仮説に向き合い、答えを出そうとしたものです。2019年未からのコロナ禍は、世界中で多くの制約をもたらし、わが国でも劇場や美術館などが一時閉鎖に追い込まれました。しかし、こうした状況下で求められたのは、精神的な刺激や安らぎを与える文化芸術やエンター

テインメントでした。私たちはポストコロナの社会で文化芸術が人や都市・地域の魅力を形づくるものとしても不可欠だと気づき始めています。

一方、まちづくりの現場において、文化芸術が都市にもたらす社会的・経済的価値をわかりやすく説明することはできていませんでした。それが広く認知されることで文化芸術はまちづくりの中心的なテーマとして真価を発揮するのではないのでしょうか。

本書では文化芸術が市民個人や企業事業活動に与える影響を定量的に分析し、誰

もが共感できる形でその価値を解き明かしています。まず市民への調査では、文化芸術活動環境の充実度（文化芸術施設の立地密度と芸術家数から評価したもの。以下「環境充実度」という。）が異なる全国8都市（港区、渋谷区、大田区、葛飾区、横浜市、京都市、さいたま市、堺市）を抽出し、環境充実度が生活者に与える影響を検証しました。分析からは、環境充実度が高いほど文化芸術活動

に触れられる地域ほど、新しい事業を起しやすく、クリエイティブ人材と産業が集積する傾向があります。文化芸術は、消費の対象にとどまらず挑戦を後押しするものとして機能し得るのです。

文化芸術が地域経済や生活に及ぼす影響を明らかに

『クリエイティブエコノミーが切り拓く都市の未来』を出版



さらに、渋谷、大丸有、京橋、東川町、弘前市を事例として取り上げ、文化芸術を核としたまちづくりに挑む企業・自治体・美術館等のプレイヤーの生の声も収録しています。

また、居住地の環境充実度の高さは、仕事・学業の創造性を高め、定住意欲をもたらし得ることが示唆されました。

彼らの経験から、文化芸術が都市の個性を生み出すこと、都市の魅力を育てるために各主体が責任と覚悟を持って長期的に取り組んできたことが浮き彫りになりました。さらに、それらの取り組みが実現されてきた背景となる仕組みやプロセスについても、貴重な示唆を得ることができました。文化芸術の価値が、誰のどのような営みによってリアルな都市空間の中に根付いてきたのかを、実感を持って読み取ることができるよう。

このような一連の調査・分析から、私たちは、文化芸術は個人にとっても企業にとっても価値をもたらすものであること、また都市文化の形成に影響を与えていることを明らかにしました。短期的な流行に左右されない、持続的で本質的な都市の個性と魅力をつくるために、文化芸術は有力な都市戦略になり得ます。都市開発・不動産・建設、自治体、文化機関に携わる方々など、より良い都市の未来を考えるすべての読者にとって、身近な文化や芸術の存在が、自身とまちの未来にいかに大きな影響を与えているか、新しい視点で見つめ直すヒントを得られるでしょう。



れるでしょう。

* 記事に関するお問い合わせはredweb@mlj.co.jpまでお願い致します。